

科目区分；小学校教科科目

授業科目名：初等図画工作

初等図画工作における授業評価報告

美術教育講座・杉林英彦

1. 授業概要

本授業は、学校教育教員養成課程及び特別支援教育教員養成課程において、小学校教科科目の選択科目の一つとして開設されている。筆者が担当する科目の受講登録者数は、64名（学校教育教員養成課程・社会科教育専修2回生10名・4回生1名、数学教育専修2回生10名・3回生1名・4回生1名、音楽教育専修2回生3名・4回生1名、美術教育専修2回生3名、保健体育専修2回生6名・4回生1名、技術教育専修2回生1名・4回生1名、家政教育専修2回生7名・4回生1名、英語教育専修2回生7名・3回生1名、理科教育専修3回生1名、教育学専修4回生1名、国語教育専修4回生1名、特別支援教育教員養成課程聴覚言語コース2回生1名、芸術文化課程音楽文化コース2回生1名、教育学研究科2名、工学部4回生1名）、そのうち男性が36名、女性が28名である。しかし、継続的な受講を行い、単位を取得したのは51名である。

本授業の目的は、小学校図画工作科の「表現」「鑑賞」領域に関わる教材を制作し、学習指導に必要な基礎的な知識と造形力を育成し、用具・道具の使い方を習得するである。また、到達目標としては、①造形に関わる基礎的な表現力や知識を身に付けること、②作品を鑑賞する方法を習得し、分かりやすく解説できること、③素材や道具に関心をもち、子どもと共感的な制作活動ができる態度を身につけることとしている。

授業の内容は、「造形あそび」を各回の内容に取り入れ、造形的な遊びから造形活動（描画表現、立体表現、平面表現、工作）・鑑賞学習へ展開することを意識した内容としている。授業者が各回の具体的な授業内容や展開を考える時に、重視していることは、受講者が「子どもになること」である。題材への興味・関心、造形活動での発見や驚き、友達と活動を共有することの楽しさを彼らが素直に表情や言動に表せるような環境に配慮した。また、各回で題材が完結するように、題材設定や、授業の準備に多くの時間を要した。

受講生への評価については、受講者が各回の授業内容などを記入した「授業シート」をファイリングしたポートフォリオを主な評価対象としている。また授業初回において、受講者へは、欠席や遅刻を減点対象とすることを提示している。

本受講者の多くが次年度前期に開講する初等図画工作科教育法を受講することになる（ある専修においては、カリキュラム上の問題で3年次で本授業を受講すること場合もある）。このことを考慮し、授業者は、本時においては受講者が実際に造形活動を行うことを通して、前述した目的を達成することとし、初等図画工作科教育法では、本時での造形活動（学習）を踏まえ、理論的学習を行うという繋がりを持たせている。

2. 授業評価アンケートの結果と考察

2010年2月19日の授業最終回終了時にアンケート調査を行った。回答者数は42名である。

<設問1>あなたの本講義への取り組み

①熱心に取り組んだ：32名、②取り組んだ10名、③あまり熱心に取り組まなかった：0名といった結果であった。概ね受講生が主体的に取り組んだ様子が伺える。筆者の印象としては、回を重ねるごとに主体的な取り組みが多く見られるようになったと感じている。

<設問2>本講義で行った制作などは、図画工作科で実際に行われている内容を多く含んでいます。講義を受けて図画工作科の教科内容のイメージが変わりましたか。

①とても変わった：18名、②変わった：19名、③あまり変わらなかった（変わらなかった）：5名という結果であった。本授業で実施した内容は小学校図画工作科の教科書にある内容をアレンジしたものであった。この設問の意図としては、受講者が「これは大学の授業だからできるものなんだ」と特別な受け止め方をしているのかを確かめるためと、この設問に解答することによって、学生に特別なものでないことを確認させる意図があった。結果からは、「とても変わった」「変

わった」が37名を占め、特別な印象を受講者が持っていたことが伺える。この設問への回答によって現在の小学校図画工作科の教科内容としては特別なことではないことを確認していることを期待したい。授業中に確認ができなかったことは反省点である。

＜設問3＞本講義で行った制作などでは、「想い」を重視した内容を扱っていました。図画工作科における「想い」の大切さを実感することができましたか。

①とても実感できた：22名、②実感できた：19名、③あまり実感できなかった（実感できなかった）：1名という結果になった。図画工作科は子どもが自らの「想い」を表し、それを感じ、その感じたことからさらに「想い」を膨らませ表していく能力を身につける科目である。本授業では特にこの「想い」を意識した制作・鑑賞活動を行ってきた。この設問の意図としては、本授業の核ともいえる「想い」の大切さを受講者が体験的に理解できていたのかを確認するために設定した。結果からは、概ね体験的に理解できていたことが伺える。

＜設問4＞本講義の一人当たりの材料費を概ねいくらと設定しますか

① 200円：0名、②400円：4名、③600円：9名、④800円：7名、⑤1000円：21名、⑥0円：0名という結果になった。筆者は本授業を担当して3年目になるが、受講生への材料費の徴収を実施してこなかった。本授業の材料費は7～8万円程度で研究費での支出で全てをまかないたいが、消耗品については、いわゆる「百円ショップ」で購入した方が大幅に安いものがほとんどであるため5万円前後を筆者の自己負担で実施してきた経緯がある。この設問意図は、来年度以降、受講者に材料費の実費負担をお願いする上で、受講者の材料費に対する印象を確認するために行った。結果としては600円～1000円の幅で多くの回答が得られた。来年度については、受講生に500円程度までに実費負担をさせるよう考えていきたい。

＜設問5＞本講義において最も印象深い内容をあげ、あげた理由を記してください。

15名「えがく・こめる・あじわう」（12月11日）

活動概要：大根を見つめる→目の前の大根に似合う名前をつける→大根を見つめる→大根の性格などを→画用紙に大根の絵を描く→大根をおろして白玉だんごと混ぜて大根餅をつくって食べる

10名「大切なひかり」（12月18日）

活動概要：絵本・市原みか『ろうそくいっぱい』（小峰書店、2008）を読む→美術作品や童話などから受講者個々の「大切なひかり」を想う→アイデアスケッチ→ろうそくづくり→家に持ち帰って大切な人や大切な時に自作したろうそくに大切なひかりを灯す。

7名「いろをつくる いろとあそぶ+たなびかず」（11月6日、11月27日）

活動概要：グループで散歩をして秋を感じてくる→小麦粉に水を加えてペースト状にする→ペースト状になった小麦粉を三つにわけて赤・青・黄の三色の食用染料をそれぞれに入れて小麦粉絵の具をつくる→散歩してきたときのことを想いながら布（90cm×200cm）に小麦粉絵の具で色をのせていく（6日終了）→面白い旗の参考作品をみる→各グループのオリジナルフラッグをつくる（大きな枝を取りに行く）→完成→各グループでフラッグを持って構内を行進→12のグループを二つのグループに分けてフラッグをバトンにしてリレーをする→各グループで記念撮影

その他、5名「アートゲームってなんだ」（1月22日）アートカードを使った鑑賞ゲーム、4名「春のあしおと 感じて 想って 表して」（1月29日）学内で春を探し、小麦粉に水を混ぜて小麦粉粘土をつくって、食用染料で色を付けて春を表す、3名「ギコギコ トントン コロボックル」（2月19日）角材や丸太をノコギリで切って、その木に釘を金槌で打って、小さなコロボックルをつくり、コロボックルがいそうな場所をさがして記念撮影、1名「さわって“見る” “さわる”をつくる」（10月24日）アイマスクで目隠しをして構内を散策して触ったもの感じたことを地図にしてい

この設問意図は、受講生に設問1～3を具体的な活動に結びつけて振り返らせるためと、筆者が本授業の目標に対する評価を端的にするためである。受講者は、自身がこれまでに経験していない内容や方法が顕著だった題材に対して回答をしている。また、他教科の関連を意識した教材にも回答をし、小学校全科教育の可能性を見出している受講生もいた。そして、体験的・創造的な活動の中で基礎的な表現力や知識を身につけることができたことを回答理由から知ることができた。しかし、「創造的」「自由な活動」を保障する環境作りに関する言及が少なかったことは筆者の課題として残る。この課題に関しては次年度前期にある初等図画教育法で学生とともに取り組んでいきたい。